

俺

book-fukunokami

「俺も本を書くぞ」

俺はそう叫んだ。

俺は本を書くことにした。

俺は白いノートを買った。

「いや、白以外の色がいいかもしれない」

俺はピンクのノートを買った。

「だめだ、だめだ、ピンク色のノートじゃだめだ」

俺は黄色のノートを買った。

「だめだ、だめだ、黄色のノートじゃだめだ」

しかし俺はカレーが食いたくなかった。

「だめだ、だめだ、カレーが食いたくなってはだめだ」

しかし俺はカレー屋に行った。

「だめだ、だめだ、カレーを食べてはだめだ」

しかし俺はカレーうどんを注文してしまった。

「だめだ、だめだ、カレーうどんをたべてしまっは、だめだ」

俺はカレーうどんを10分見つめた。

カレーうどんは冷えてしまった。

「お客さん、どうかしましたか？」

美人の店員さんが聞いた。

「いや、熱そうだから冷めるのをまっていたのです」

俺は嘘をついた。

そうだ、俺の書く本も嘘にしよう。

俺はカレーうどんをすすりながら嘘を黄色いノートに書いた。

まず、大きく、嘘、と書いた。

達筆だと思った。

「あら、ずいぶん、美しい、嘘、の字ですね」

美人の店員さんは気に入ってくれたようだ。